

ドライアイ治療の新たな選択肢

2016年11月4日(金) 7:30~8:30

第8会場(国立京都国際会館 1F Room C-1)



座長 坪田 一男 先生
(慶應義塾大学医学部眼科学教室 教授)

- 1980年 慶應義塾大学医学部卒業、慶應義塾大学医学部眼科学教室入局
- 1983年 国立栃木病院眼科医長
- 1985年 ハーバード大学留学
- 1987年 ハーバード大学角膜クリニカルフェローシップ修了
- 帰国後 国立栃木病院眼科医長
- 1998年 東京歯科大学教授(眼科学)
- 2004年 慶應義塾大学医学部教授(眼科学教室)

近年、ドライアイ診療には、眼表面の層別診断(TFOD:Tear Film Oriented Diagnosis)と、眼表面の層別治療(TFOT:Tear Film Oriented Therapy)という新しい考え方によってパラダイムシフトが起きており、この考え方は今後さらに整理され、活用しやすいものになってゆくことが期待される。

涙液は油層と水層(ムチン層と水層)からなっている。眼瞼に存在するマイボーム腺から分泌される油層は涙液の蒸発を抑制しているが、Lempらの報告によって、ドライアイ症候群の約86%はこのマイボーム腺の機能が低下することによっておこることが明らかになった。

本セミナーでは、世界に先駆けてマイボーム腺の機能低下に対する新たな治療を始められたRolando Toyos先生にその治療についてご講演いただき、その後、日本でこの新たな治療の臨床評価を始められている戸田郁子先生および有田玲子先生に中間報告をご発表いただく。

History of IPL for DED - Discovering the Mechanism of Action



演者 Rolando Toyos 先生
(Medical Director and President, Toyos Clinic, TN, USA)

- 1988 B.A. from University of California, Berkeley - Research Howard Bern Lab
- 1989 M.A. from Stanford University - Research Lee Shulman Lab
- 1994 M.D. from University of Illinois - James Scholar
- 1998 Ophthalmology Residency - Northwestern University
- 1998-Present Medical Director and President, Toyos Clinic

涙液蒸発亢進型ドライアイとMGDの診断と治療



演者 戸田 郁子 先生
(南青山アイクリニック東京 理事長)

- 1986年 筑波大学医学専門学群卒
- 1986年 東京慈恵会医科大学眼科学教室研修医
- 1990年 慶應義塾大学眼科学教室専修医・東京歯科大学眼科
- 1994年 Harvard Univ. Schepens Eye Research Institute
- 1997年 南青山アイクリニック院長
- 1999年 博士号(医学) 慶応大学
- 2004年 慶應義塾大学眼科学教室講師
- 2005年 南青山アイクリニック理事長

マイボーム腺機能不全治療に対する新たな可能性 —M22の使用経験—



演者 有田 玲子 先生
(伊藤医院副院長、LIME研究会(代表))

- 1994年 京都府立医科大学卒業
- 2001年 京都府立医科大学大学院博士課程修了
- 2002年 慶應義塾大学眼科助手
- 2005年 伊藤医院眼科副院長
- 2007年 東京大学眼科臨床研究員
- 2011年 慶應義塾大学眼科講師(非常勤)
- 現在に至る